

■**冢田大峰** 儒学者。独自の冢田学確立、異学の禁の“五鬼”で最も激烈に抵抗し、尾張明倫堂の学風を一新した。

つかだたいほう

義経千本桜・1747= 生。信濃国水内郡長野村の人。父は儒者冢田旭嶺。

徳川吉宗没・1751= 4歳：

・・・・・・1756= 9歳：

早くから父に学び、

大岡忠光没・1760=14歳：

・・・・・・1761=15歳：江戸に出て僧となり、

増上寺に一時いたが還俗し

錦絵始・・・・1765=18歳：

儒たらんと志し、刻苦辛酸学成って、私塾を開いて教える。

学は貧なるため定師がなく、初め朱子学であったが、

終始苦しい中での独学で、

田沼意次老中1772=25歳：

解体新書・・・・1774=27歳：この頃、赤坂より青山まで油を借りに行き、その油で夜勉強したこともあったという。

・・・・・・1777=30歳：この頃から朱子学を斥け、古学を奉じ、自ら一家の学を打ち立てた。

蘭学階梯・・・・1783=36歳：

蝦夷初調査・1785=38歳：越前町具坂に新たに家塾を開いて雄風館と称し、多くの門弟を集める。

田沼意次失脚1786=39歳：

寄宿の生徒は常時5、60人を下らなかつた。

異学の禁・・・・1790=43歳：

*幕府が所謂異学の禁の通達を出した際、それに対して異学の徒は盛んに抗論。中でも山本北山・亀田鵬斎・冢田大峰・豊島豊洲・市川鶴鳴の5人は、その魁として五鬼と呼ばれた。就中大峰は、前後3回にわたってその不可を論じた。その言葉もまた激烈なものがあつた。

ラッセル来日・1792=45歳：

松平定信引退1793=46歳：

これより先、細井平洲の仲介で、江戸名古屋藩邸に出入し、9代藩主徳川宗睦の信任を得ていたが、

宣長没・・・・1801=54歳：*10代藩主斉朝によって、儒臣に採用された。

・・・・・・1810=63歳：

ゴッホの拿捕 1811=64歳：*尾張に來て藩校明倫堂の督学となるや、撰挙科目、読書次第を制定し、また戒約五条を定める。

日課として熟読すべき書は、悉く冢田自註の十三經書を使用させ、且つ門下生を教授や典籍に任命するなど、一藩の学風は大峰学へと変革した。そして学風の自分と異なる者を排斥して学職につかせなかつた。人となり豪邁剛直、学は漢学・朱子学・陽明学・祖棟学・仁齋学のいずれにも偏らず、古註を主としたいわゆる冢田学を組織した。そして等身にも及ぶ多くの著作を残した。教え方は懇切丁寧、講説もうまくて従学する者が多かつた。

水野忠成老中1818=71歳：

群書類従完結1819=72歳：

シボム事件・1828=81歳：

鼠小僧磔・・・・1832=85歳：

途中で没した。

著書は「聖道合語」「聖道得門」「聖道弁物」「解櫃」「多門上疏」「随意録」「正朔断惑編」「作詩質的」はじめ、全部

で50余部2百余巻にもなる。

「没年日本史人物事典」